

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>
 第640号 2023年6月11日

「イエスのみ心」

主任司祭 ミカエル鈴木 真

6月は「み心の月」とも言われますが、これは「イエスのみ心」の祭日があるからでしょう（「キリストの聖体」の週の金曜日、今年は6月16日）。

「イエスのみ心」とは、正確にはイエスの心臓に対する信心、と言われます…そう聞くと、ちょっと不思議な感じもしますが、人間の内臓を感情や思いの首座、と捉えていたことからくるものと思われまふ。例えば、日本語でも「腹黒い」とか「はらわたが煮えくり返る」「腑に落ちる」などと言いますよね。

何かの折に話すことですが、福音書で「深く憐れむ」とか「憐れに思う」と訳されている〈スプランクニゾマイ〉というギリシャ語は、“はらわたが揺さぶられるような思い”という意味だそうです。そして、この動詞は、一部の例外を除いて、神かイエスが主語の時にしか使われません。つまり、神さまの一つひとつのいのちに対する思い、激しい愛を表現したもの、と言えるでしょう。そこからするなら、「イエスのみ心」も、そんな神さまのいつくしみと愛を示すものです。逆に言えば、神さまのすべてのいのちに対するいつくしみと憐みに満ちた思いを象徴しているのが、「イエスのみ心」であるわけです。

そして、山手教会は、その「イエスのみ心」にささげられた聖堂です。カトリックのすべての教会（聖堂）には保護聖人とか守護聖人と言われる聖人が決められていますが、山手教会は、なんとイエスご自

身に守っていただいているということ。そんなのありかー！とか思っちゃいますけど（ちなみに東京教区の司教座聖堂は「聖母マリア」です…）、ここ山手が日本再宣教後に最初に建てられた教会であることにも、深く関係しているのでしょうか。

今年は聖堂の長い修復工事がようやく終わって、本当に綺麗で便利な聖堂にリニューアルされました。修復に携わってくださったすべての方々、また、いろいろな面でそれを支え、そして、ご援助くださったすべての方々に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

今年のこの「み心の月」に、新たにされた聖堂で、改めて神さまのいつくしみと愛を共に分かち合いたいと思います。